



VOL. 10

2011.2

木と家の話

昔、娘が生まれると桐の木を植えました。桐の木は成長が早く10年から15年程度で大きくなります。娘が嫁入りする時に大きく育ったその桐で作った筆筒を嫁入り道具に持たせたのです。桐は材質が均一で変形し難く、精密な作りができるうえ湿気に強いので筆筒には桐がいちばんで今でも高価なものです。スローライフ・・・ゆったりした気持ちで、子供の将来を思いやったのですね。

同じように・・・

その昔、家づくりは木を育てることから始まりました。

父、祖父、曾祖父が大切に育てた木は、それぞれの思いを受け継ぎ、50年100年をかけてその地の気候風土に育てられ、子や孫の代になってようやく家づくりという役目を与えられたのです。家を建てる時に木を切られた山にはまた、その時に使った木材と同じ木を植え、月日がたち家を補修する際にその木を利用する事も習慣としてあったそうです。

それは、当時当たり前だった『地産地消』という家づくりの道理にかなったものでした。

何代にもわたって計画され、建てられた家には父祖の地の記憶や思い出が、『確かなもの』として宿っていたことでしょう。

大きな川のほとりの小さな村に

可愛い孫娘が生まれました。待ちに待った大切な孫娘でした。

おじいさんはお墓のそばの高台に孫娘のために、杉の苗を50本植えました。暑い盛りの日でしたが、隣近所の人たちも手伝ってくれました。

いつかこの木でこの小さな孫娘のための家を立てて欲しい、そんな思いをこめて1本1本丹精に植えられていきました。

やがて 杉の木は村を見下ろすこんもりした山に成長しました。

ところが、杉の木が大きくなるにつれ、村も町も人のココロも大きく変化しました。

大きな道路ができ、たくさんの人が村を出て町に移り住み、便利さが心地よさにかわっていきました。

成長した孫娘も都会にお嫁に行くことになりました。

おじいさんは大きくなった杉の木の肌に触り、杉の木を見上げました。

「みんながいなくなっても私はここにいるよ。あなたがくれた命だもの・・・」

淋しいおじいさんに語りかけるように、風が梢を渡っていきました。

やがて おじいさんは杉の木の根元のお墓で永い眠りにつきました。

おじいさんが杉の苗にこめた思いも語られることがなくなりました。



杉の苗が植えられてから、50年の月日がたち、村の造成工事が行われることになり、おじいさんの杉も切られることになりました。けれど 50年もたった今では、この杉たちを家作りに生かすことはむずかしくなっていました。外国産の木で家を作るほうがずっと安価で簡単になっていたからです。

おじいさんの木は引き取り手のないまま処分されることになりました。

ところが ちょうどその頃、お嫁に行った孫娘に家を建てる話が持ち上がりました。

おじいさんの木はおじいさんの願いどおり孫娘の家に使われることになりました。

孫娘は切られた木を見て、自分の年齢だけ年輪をかぞえられることに感動しました。

切られた木を見て、近所の人たちが、「わたしたちも一緒に植えたよ」と当時の話をしてくれました。



孫娘の子供たちは見たことのない曾おじいさんの話を聞くことができました。

当時の見渡す限りの山や田んぼの話、昔はここに炭鉱があった話、トンボを追いかけたこと、イノシシの穴の話、冷たい泉があったこと・・・いろいろな話がニコニコと語られました。

おじいさんやたくさんの村の人に植えられた木で家が建ちます。

家の中で家の外で、おじいさんや村の話や、昔の話がひ孫たちにまでたくさん語られます。

柱になった杉の木までが、孫やひ孫やその子ども達にまで語りかけていきます。



地産地消とか、地球環境対策とか、ウッドマイレージとか・・・むずかしいこともたくさん語られますが、先祖が植えて育ててきた木を今の世代が家という形に変え、次の世代がその家で育つ。木を使わせてもらうことで、先祖とまだ見ぬ次の世代とのつながりが感じられ、何よりも見守られている安心感を得られる気がします。

桐とか杉とか・・・そんな大それたものではなくても、記念の植樹もいいかもしれませんね。結婚記念、誕生記念、新築記念、入学記念・・・。

梅（松竹梅として縁起がいい為ですが、特に梅には、いち早く花を咲かせることから「生命力」の象徴として縁起が良いとされます）

木蓮（木蓮は花が大きく開き、その様子から「驚きや喜びを表わす」縁起木とされています）

むくげ（源氏の武士の家には、子供が育ち始めるともくげ（むくげ）の木を植える習慣があったそうです）

自分の木が根付いて育っていくのを見つめていくのは、「確かなこと」としてとても嬉しいことかもしれませんね。

男性はご注意を！？ 定年前の住まい考

ご主人さん

定年後、奥さんは誰と暮らしたいか、知っていますか？
団塊世代の男女を対象にこんなアンケートが行われました。

団塊世代の男女に定年後の理想の生活像に関して、アンケート調査をしたところ男女の意識の違いが、かなりありました。

男性は・・・

1位 配偶者と暮らす・2位 健康のためスポーツをする・3位は収入の伴う仕事をする・4位 子供や孫との暮らし・5位 地域活動をしたい。

対して女性の方はといたしますと・・・

1位 家事の省力化・2位 モノを少なくスッキリと暮らす 3位は話題のスポットへお出かけなどなど・・・

男性の1位である「配偶者と暮らす」は約95%の意見でしたが、女性は・・・85% (^_^) 10%の差があります・・・

特に女性が大切にしたい生活像は、見ての通り 家事の省力化とスッキリ暮らすこと、そして少しのお出かけ。

男性は、家族重視で社会帰属意識が高いのですが、女性は「合理化エンジョイ派」が大多数を占めています。

そこで！ 夫婦の「棚おろし」のすすめ

1位の家事の省力化は・・・ようやく子供が離れて主婦として卒業出来る時。入れ替えに家庭に帰ってくる夫の世話に時間を取られるのは勘弁してほしい。

2位のスッキリ暮らすは・・・家の滞在時間が圧倒的に長くなる夫に対して趣味の道具など広げて散らかせないでほしい。

3位のお出かけは・・・夫が家にいるようになって気兼ねして外出出来ないのはイヤ。というアクティブな気持ち・・・ということだそうですね。

男性が思っているほど、女性の方はこのままの生活を当たり前だと思っていたいようですね(笑)

夫は「妻と一緒に」が当然だと決めつけられない方がいいかも。

ただ、そうは言っても、同じ屋根の下で暮らすことになるのが夫婦です。

長年生活をしてきた夫婦は案外とお互いの思っていることを言葉にしなくなってきてしまいます。

そこで「夫婦の棚おろし」 サラリーマンという肩書がなくなる前に、これからのことを振り返り言葉にし合う、そしてこの先、新しい長い人生を考えるために「妻として、母として一人の女性として感じていること、これから始めたいこと」などなど、思いをヒヤリングしてみたいはいかがでしょ？

私たちは今、こんな仕事をしています。

2月11日(金)～2月13日(日)の三日間

住まいの基本を学べる

新築完成見学会を行います!

～ 白い シカクイ 家 ～

- ★住宅エコポイント 30万ポイント取得
- ★滋賀県産の木材を使って 40万円の補助金
- ★フラット35Sですっと固定金利
- ★次世代省エネルギー住宅で 金利がー1%引き
- ★ケイソウ土を家族総出でセルフビルド!



などなど 今の住宅政策をうまく利用した住まいが完成しました。



- 2月12日(土) 住宅ローンとライフプランのお話
 - 2月13日(日) 自分で考える間取り講座
- 上記の各講座は要予約・開催時間は各回とも 10時と13時
- 2月11日～13日の三日間 ケイソウ土の塗り壁体験を随時行います。
- 新築はもちろん、リフォームなんかにも使えるお話ばかりです。ぜひ、お越しくださいませ。

家に居場所をつくるため

男性が会社や仕事で費やしてきた同じくらいの時間を、女性は家事や子育てをしながら家で過ごしています。ありえませんが、妻が職場に同行し会話などに割りこんできたらどうでしょう？また常に自分の行動を見守る妻の視線にうっとしく思いませんか？

妻にとっては夫が定年を迎えて1日中家にいるとうことは、まさにこれと同じだそう(笑)

男性からすると「我が家において何が悪い」という気持ちになるでしょうが、仕事中心の人生を送っていた間、家や子供の面倒を一人で見てきた妻は家を「我が城」と思うようになるのは自然だそうです。

家は妻の「お城」で男は「侵入者」

完全に出来あがっている妻のお城に、男性の居場所を作ることは、お互いに理解することから始まります。

- ① 家族との関係を見直す
- ② どういう生き方をしたいか将来を考える
- ③ 安心して生活できる土台をつくる
- ④ 親世代の成功や失敗を活かす

これらを頭にいれて「家は妻任せ」から脱却し、かじ取りをしてみてくださいね。

環境共生住宅工房・(株)ベストハウス

滋賀県栗東市小野 1007-3

フリーダイヤル 0120-6955-81

TEL077-552-6955 FAX 077-552-6775

ホームページ <http://besthouse.cc> E-mail 6955@besthouse.cc